

海に親しみ ふるさとに誇りと愛着を持つ児童生徒の育成

～海に関する体験活動を通して～

石川県能登町立小木小学校

はじめに

能登町小木地区は豊かで多様な生物が生息する海岸線、特色ある水産業、海に関連する歴史や文化を有し、金沢大学臨海実験施設をはじめいくつもの研究・体験施設等がある。また日本海側有数の遠洋イカ釣り漁業基地としてイカの水揚げ量が日本海側一位の「イカの町」であり、関連する施設等も集中している。

本校では、海に関する体験活動や地域行事への積極的な参加を教育活動に組み入れ、地元小木の誇りと愛着を育むことを教育目標の一つに掲げている。また、文部科学省の特例による新設教科「里海科」は、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4分野を系統的に組み合わせたカリキュラムにより、海に親しみふるさとに誇りと愛着を持った児童の育成を目指している。

また、本校は、能登町の海洋教育推進拠点校として、町内の小中学校に海洋教育プログラムを提案し、普及を図る役割も担っている。

里海学習の取組 研究主題「海に親しみふるさとにほこりと愛着を持つ児童の育成」～海に関する体験活動を通して～

目指す児童像

- ・海に自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童
- ・海に自然や資源、人との関わりについて進んで調べようとする児童
- ・海に環境保全に主体的に関わろうとする児童

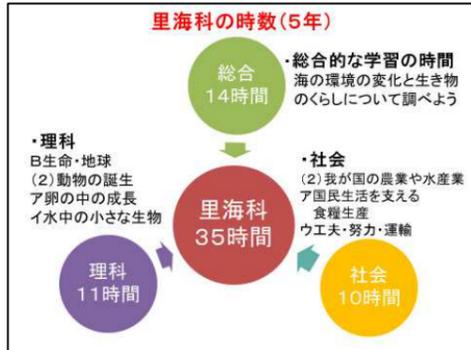
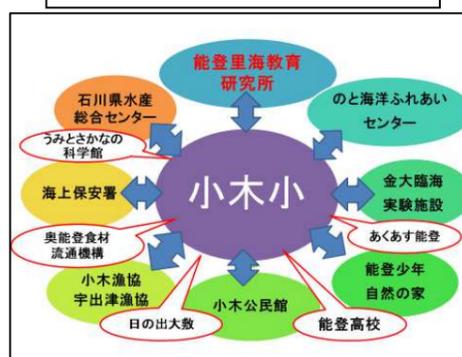
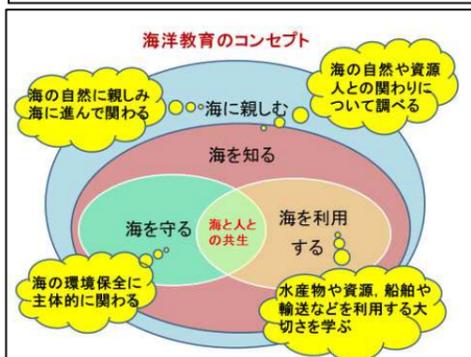
教育課程 他教科との関連を図りながら実践

- 1・2年生：生活科(15時間)
- 3・4年生：総合的な学習の時間(70時間)
- 5・6年生：**里海科**(35時間)

教育課程の概要 (R1 現在)

(参考：海洋政策研究財団 グランドデザインより)

関係機関との連携



〈成果〉

- 児童の海に対する興味関心が高まり、もっと知りたい・調べたい意欲やふるさとを思う気持ちが高まった。
- 知識と体験の一体化から、次への課題意識を持ち自ら考え、探究する姿になった。
- 探究の姿勢、人との関わる経験が少しずつ学力向上にも波及してきた。

〈課題〉

- 短期サイクル、次学年とのつながりを意識したカリキュラムの見直し
- 海洋教育について、職員の更なる研修の充実。

各実践

1年生「海の植物」～A [海に親しむ]～



夏に小木の浜辺に出かけ、海そう採集・観察
→季節による海そうの種類・大きさ・色の違いに着目

2年生「海の動物」～A [海に親しむ] B [海を知る]～



海に住む生きものを採集・観察
→調べ学習を通して「すみか」「えさ」を知り、飼育活動

3年生「環境学習」～C [海を守る]～



小木の海岸清掃を通して環境保全活動に取り組む
→町内の各施設に Outreach 環境保全ポスターを配付

4年生「地域学習」～A [海に親しむ] D [海を利用する]～



小木の伝統産業である「イカ釣り漁」について学習
→小木漁協、イカ釣り船員、地域の方を講師として招く
→紙芝居「小木イカ物語」と「小木イカレシピ本」にまとめ、能登町内の小学校に発信

5年生「地域・環境学習」～B [海を知る] C [海を守る]～



3年時からの学習を基に、地域の環境問題・海洋ごみを学習
→町内のごみ調査に出かけ、結果をマップやグラフにまとめる
→海洋ごみの問題点を考え、解決方法を話し合う
→海洋ごみ削減動画と提案書を作成し能登町内に発信

漁師の仕事学習
→実際の仕事を見学・体験し、漁師の仕事について知る
→日の出大敷の漁師の方を講師として招き、仕事に対する思い、地元で働く良さを学ぶ

パイオニアスクールとして ～能登町の小中学校対象「海洋教育研修会」～

低学年部会～A [海に親しむ]～

中学年部会～C [海を守る]～

高学年部会～B [海を知る]～

中学校部会～D [海を利用する]～



海の動植物に触れる体験活動



海に環境問題に触れる体験活動



海の生態系に触れる体験活動



アルパトロスによる川底調査活動

各部会に分かれ、児童・生徒の気持ちになって体験活動を実施。その後、本校の実践例を発表し、自身の学校での海洋教育のカリキュラムを作成。本校の職員と、アドバイザーとして能登里海教育研究所の方々に入ってもらい、活発な話し合いが行われた。カリキュラムの共有では、各学校の活動内容に興味を示し、来年度から実践したいと話す参加者が見られた。